

# 発達検査と対人援助学

## ⑥赤ちゃん調査

大谷多加志

2021年9月30日に、全国に発出されていた緊急事態宣言が解除され、さまざまな規制が緩和されました。宣言中の行動規制は、現在行っている研究活動にも及んでいて、同志社大学赤ちゃん学研究センターと共同で実施していた研究も、その影響を受けていました。

2020年4月から、同志社大学赤ちゃん学研究センターとの共同研究として、赤ちゃんの発達についての調査を実施してきました。しかしながら、同時期にコロナ禍が訪れ、昨年度・今年度はまん延防止等重点措置や緊急事態宣言が発出される度に、調査に制限をかけたり、一時休止の措置がとられたりしていました。コロナ禍が訪れてからは、休止と再開を繰り返してきた赤ちゃん調査ですが、今回の宣言解除で、ようやくまとまった期間の調査が行えそうです。

今回はこの「赤ちゃん調査」についてご紹介しようと思います。

### 赤ちゃん学研究センター

同志社大学赤ちゃん学研究センターは、同志社大学学研都市キャンパス内に設置された、同志社大学に属する研究機関です。学研都市キャンパスは「キャンパス」とは銘打たれているものの、大学の授業が行われる

ことはないため、学生さんの姿はなく、研究専門の施設として用いられています。見晴らしのよい精華台に建てられたキャンパスからは、奈良の生駒山まで一望でき、京奈和道のICからも近い好立地です。

センターには専任の研究者の方や、事務スタッフの方が常駐しておられて、それ以外には、私のように外部から共同研究で参加している研究者の姿もあります。幸運な巡り合わせで機会を得て、2018年から研究に寄せて頂くようになり、今年で4年目になりました。



### 赤ちゃん調査

赤ちゃん学研究センターではさまざまな調査が行われていますが、ここでは私自身が関わっている調査の内容と流れについて説明しようと思います。

現在行っている調査は生後 10 か月の赤ちゃんを対象としていて、生後 1 歳半、3 歳まで継続的に調査を行う予定です。内容としては、子どもの発達状態に関する調査と保護者の育児不安に関する調査の 2 つの内容が含まれていて、赤ちゃんの発達状態の評価には、新版 K 式発達検査を用いています。保護者への調査はアンケート（質問紙）方式です。調査時間は 1 時間の枠を設定していますが、スムーズな時は 30 分程度ですべての調査が完了します。また、

保護者対象の調査と赤ちゃん対象の調査はどちらが先になっても構わないのですが、赤ちゃんの機嫌がよければ赤ちゃんの調査を優先的に済ませるようにしています。各回の調査の流れを図示すると図 1 のようになります。

調査が早めに終わった場合も、保護者の方から感想をお聞きしたり質問を受けたり、赤ちゃんとそのまま少し遊んだりして、おおむね 1 時間程度で完了となることが多いように思います。



図 1 赤ちゃん調査の流れ

### 赤ちゃんがやってきた！

センターの入口から調査室までは、赤ちゃん学研究センターのスタッフの方が引率して来てくださいます。もう相当な回数調査を行っていますが、今でも赤ちゃんと出会う時には楽しみと緊張でいっぱいになります。

まずは、どんな調子で調査室に来てくれるか、要するにご機嫌がいいかどうか気になるポイントです。調査の時間帯（午前・午後）によっても違いますが、居住地や用いた交通手段によって、赤ちゃんや保護者の方のお疲れ具合が違うように思います。ここしばらくはコロナ禍の影響もあって自家用車で来所してくださる方が多く、運転中は眠ってしまう赤ちゃんも多いことから、来所してすぐは少し寝起きで覚醒が低かつ

たり、少しご機嫌ななめな場合も少なくなかったですが、このパターンは少し時間が経ってしっかり目が覚めてくるとご機嫌よく過ごしてくれることも期待できるように思いました。特に、午後の時間帯の調査



では“赤ちゃんのお昼寝の時間にかかるのでは…”と心配になるのですが、車でひと眠りしてくれていると思いがけず調子よく過ごしてくれる、ということもありました。

### ここはどこ？あなたは誰？

10 か月調査に来られる赤ちゃんは、保育園に通っている子どもも一部はおられますが、やはり在宅で過ごしておられる方が割合としては多いです。赤ちゃん調査は、ほぼ平日の日中で実施しているので、その時間枠も影響しているかもしれません。

そんなわけで、ご家族以外の人と会う機会は少なく、ほとんどの時間を自宅やそのご近所で過ごしている赤ちゃんにとって、調査室は見慣れない場所ですし、おもちゃを手に近づいてくる調査者は何とも怪しい存在です。生後 10 か月というと人見知りも強い時期なので、調査者を前に固まってしまったり、泣き出してしまったりということもあります。10 か月の赤ちゃんはまだしゃべれませんが、話せるとしたら「ここはどこ？あなたは誰？」と言いたい気分かもしれません。

### いろいろな赤ちゃん

入室した段階で、赤ちゃんが見せてくれる姿はさまざまで、そこにひとりひとりの個性も表れているように思います。見慣れない調査者に対して、ギョッとしてお母さんの胸に顔をうずめる子、調査者を凝視して目が離せなくなる子、あまり気にせず調査室や調査者を眺めている子、調査者が差し出した検査用具（おもちゃ）に早速関心を示して触り始める子…など本当にさまざまです。

調査者は赤ちゃんの様子を見ながら順次調査の進め方を調整し、例えばすぐに検査用具に手を伸ばしてくれる赤ちゃんであれば、必要書類の記入が終わればそのまま赤ちゃんの発達評価に移行します。一方で、書類の記入が終わってもなかなか場に慣れていない感じであれば、先に保護者の質問紙調査を実施します。

赤ちゃんは「社会的参照（ソーシャル・リファレンス）」と言って、見慣れない人が現われた時に、信頼できる人（例えば養育者）がその人とどのように関わっているかを観察し、その関わり方を通して自分にとって安全な人かどうかを判断するとされています。例えば、お母さんが談笑しているのであれば、おそらく安全な人と推測できますし、お母さんが怪訝そうにしたり警戒の色を浮かべているのであれば、おそらく警戒すべき他者であると推測できることとなります。そういう意味では、赤ちゃんを連れてきてくれた保護者の方とのやりとりも、赤ちゃんの視線を意識しながら、なるべく安心感を与えるものになるように努めています。

### 保護者の方と

保護者の方は、お母さんかお父さんのいずれかでお越しになる場合が多いですが、ご両親一緒に来て下さる場合もあります。また、ほとんどの場合、赤ちゃんの発達評価の間は保護者の方も同席して観察していただきます。家族以外の人と遊ぶ姿や、普段は触らないようなおもちゃ（検査用具）に対する赤ちゃんの反応の中には、保護者にとって意外な反応もあるようで、基本的に楽しく興味を持って見て頂けることが多いです。

赤ちゃんは興味を持ったものは、こちらの観察が終わった後もしきりに触って遊ぶので、調査時間の間にその物の操作が目に見えて上達することがあります。赤ちゃんの変化を目の当たりにすると、子どもの育つ力のすごさを実感しますし、保護者の方の満足度も高まるように思います。参加してくださった赤ちゃんご家族にはただただ感謝です。

### 調査を終えて

調査を終えると、次回の調査参加のお願いをして(もちろん、先のことなので約束ではなく、ただお願いをするだけです)、赤ちゃん調査は完了となります。現在はコロナ対策が必須なので、調査が完了した後は使

用した部屋の設備や検査用具をすべてアルコールで拭き取り、次の調査に備えます。

とにもかくにも、調査協力者の方との日程調整から当日のコーディネートを担って下さり、なによりコロナ禍の中でも対策を講じながら最大限調査が進められるように調整して下さった赤ちゃん学研究センターの皆さんには感謝の気持ちしかありません。

まだ 10 か月の赤ちゃん調査も目標件数には到達しておらず、1歳半、3歳の調査も残している状況ですが、これからも子どもたちやご家族との出会いを楽しみながら調査を継続し、これから生まれてくる子どもたちのそだちのために何かひとつでも意義ある結果を残すことができたら願っています。

